

「全鍍連」2024年2月号 巻頭言

全鍍連 経営副委員長 堀内 麻祐子 (株)センショー 代表取締役)

「承継とアップデート」



立春を迎え、組合員の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。昨年5月より、全鍍連 経営副委員長を仰せつかっております株式会社センショーの堀内麻祐子でございます。また女性経営者部会では、株式会社九州電化の山田副社長が、部会長のバトンを受け取って下さり6年間務めさせていただきました部会長を昨年退任致しました。在任中は、会員の皆様、全鍍連役員の皆様、事務局の皆さま、そして女性部会の諸先輩方をはじめ、多くの方々にお力添えを賜り部会が運営できましたこと、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。今後は、経営副委員長という立ち位置から、微力ではございますが女性経営者部会のお役に立てる方法を探していきたいと思っております。

さて、人生には四つの季節があるそうです。もとは古代中国の思想で、人生80年をざっくり20年ごとに「青春」「朱夏」「白秋」「玄冬」として四季に当てはめたものといわれています。でも今はもっと長く、人生は100年時代です。環境もテクノロジーも大きく変化した時代に生きる私達には、人生を四季に当てはめるなんてナンセンスかもしれません。

とはいえ、私はこの考え方でいうと、ちょうど秋に入ろうとしていたころ「めっき」という仕事に関わる事になりました。いわゆる実りの季節です。振り返れば私とものづくりの関係は長く、20代、30代は、発注者として数多くの職人さんや技術者の方との関わりの中で、雨よ降れ、日日照れと言わんばかりに無我夢中で突き進んだものですが、その頃に経験した数々の失敗や先人の指導を糧に、運命的にこの自分の場所にたどり着き、結実はめっき業の経営者だったのです。業種は違えど、誇り高い職人が手掛ける加工、一直線に突き進む技術者の姿勢、そういったものに若くから触れられた私は幸せだったかも知れません。それまでの経験はすべて礎となり、私を支えてくれたような気がします。自動化やAIが当たり前になりつつある時代であっても、「青春」「朱夏」を生きる社員にこの心意気は伝えていきたいと思えます。

私は日本人の気質や真心と深く結びついたこの「めっき」という仕事が好きです。だからこそ、これから新たに耕したいフィールドや、まきたい種があるのです。必要とあらば二毛作でもやりながら、新しい時代に継承され、アップデートされるめっき業の姿を探求していきたいと思えます。かつては不可避だった時の流れも、今はもう少し客観的に柔軟な視点で向き合える時代です。だからこそ年齢に関係なく、学びと挑戦の気持ちを持っていたいと思えます。

世界が、日本が揺れ動く時代の中で、時流に惑わされない頑固さを備える一方、しなやかで軽やかに変化できるそのバランスを上手く取りながら進んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、全国鍍金工業組合連合会の会員企業の皆様の、益々のご発展を祈念いたしまして結びの言葉とさせていただきます。